

令和8年度気仙沼市立中学校に在籍するお子様の保護者の皆様へ

気仙沼市は、子供たちの豊かなスポーツ・文化芸術活動の確保・充実に向けて
休日の学校部活動を地域クラブ活動として取組を開始しています！

国の動向

近年、少子化等により、学校部活動を継続していくことが難しくなっていることから、国は令和4年度から進めてきた準備期間を経て、令和8年度から令和13年度までの6年間で「改革実行期間」と位置づけました。この期間内に、休日の部活動については「原則として全ての部活動で地域展開を実現する」という目標が示されました。

本市の考え

市教育委員会では子供たちの豊かな活動機会の確保のため、「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」において、部活動の在り方を検討し、学校を含めた地域人材・団体の理解と協力を得ながら、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術の活動環境として地域クラブ活動の仕組みを新たに構築します。

また、国及び県の方針に沿って、平日の移行も見据えながら、まずは休日の学校部活動の地域移行を目指します。

なぜ地域移行が必要なのか？



◆ 生徒数が減少しており、各校で十分な活動ができなくなる可能性が高まっています。

【中学校の生徒数推移予測】

平成19年度 2,320人
令和7年度 1,156人 (▲50.2%)
令和14年度 871人 (▲62.5%)

◆ 部員数が減少し、学校単位では部活動が成り立たなくなってきています。

【部活動数の推移】

平成18年度 運動部 13競技 (総部数122)
令和7年度 運動部 10競技 (総部数61)
文化部 3部 (総部数11)

◆ 指導者を確保することが年々困難になっています。

少子化により学級数が減少した場合、教職員の数が減り、部活の数に対して教員数が不足することが大きな問題となっています。また、競技経験や指導経験が浅い教職員（顧問）が指導に従事する機会が多くなっており、令和4年度の本市調査によると、62.2%の教職員が「経験なし・学校の授業での経験のみ」と回答しています。

移行することにより…

- 学校ごとに部活動が限定されず、子供たちの選択肢が広がります。
- 専門的な指導が受けられやすくなります。
- 子供たちが切磋琢磨できる環境や世代間交流機会の創出により視野を広げ、社会性を育むことが期待できます。
- 教員の負担が減り、教材研究や生徒と向き合う時間等が増えます。

【お問い合わせ】 気仙沼市教育委員会 学校教育課 熊谷・小野寺 ☎ 22-3441
生涯学習課 幡野・佐藤 ☎ 22-3442

～気仙沼市立中学校の生徒の皆さんへ～

今年度から「休日の活動」の選択肢が広がります！

◆ これまでとこれからを比べてみよう！

気仙沼市教育委員会 学校教育課・生涯学習課

	これまで	これから(令和8年度)
休日の活動	学校部活動が基本	部活動や今年度行ってきた地域クラブ活動(サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボール、語り部)の他にも様々な地域にあるクラブも選べるようになる予定です。
指導者	学校の先生、部活動指導員、外部コーチ	地域の指導者
場所	学校施設、公共施設	学校施設、公共施設
参加者	当該校の部に所属する生徒	市内中学校の生徒(誰でも参加可能)

◆ 部活動の他に3つの活動パターンも選べます！

パターン1

市が認めた地域クラブ活動



スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなど、市が認定した多様な団体で活動します。

パターン2

市で運営する地域クラブ活動

昨年度の休日に月1・2回行っていた、サッカー、卓球、バドミントン、野球、語り部など、市が直接運営するクラブ活動です。



パターン3

週末合同練習会(部活動)



複数の学校の生徒が集まって、週末にみんなで一緒に活動します。

活動に関する

Q&A



学校の先生には教えてもらえないの？

地域クラブ活動に先生も地域の指導者として登録している場合、引き続き指導してもらえる可能性があります。

必ずどれかに参加しなければならないの？

参加は任意となります。自分の挑戦したいことを選択して取り組んでください！

平日の部活動はどうなるの？

平日はこれまでどおり学校部活動となります。ただし、男子バレーボールについては、8月以降平日と休日どちらも地域移行する予定です。